

巻・頭・言

倫理と仏法 —倫理に解答はない—

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、大変なことになっていますが、当倫理委員会活動に関しても停滞を余儀なくされているのが実情です。昨年は定例会やシンポジウム等が中止になりました。例年開催していたシンポジウムでは、最初に委員長の挨拶があり、今回は何を話そうか考えていたところでした。それが中止となり、残念に思っていました。そこで、ここではそれに関連して書こうと思います。

以前の挨拶で私は倫理には解答がないと、挨拶しました。建設新聞だったと思いますが、そのことを取り上げた記事が掲載されていました。その根拠をすこし示したいと思います。

私は仏法に興味を持っています。仏法の教えは倫理につながるものが多々あると思います。例えば八正道というのがあります。

1. 正見(ショウケン)：一切の物事は無常としてみる
2. 正思惟(ショウシユイ)：欲、怒り、加害的な思考を止める
3. 正語(ショウゴ)：嘘、人を非難、噂話(両舌)、無駄話をしない
4. 正業(ショウゴウ)：殺生、窃盗、邪(よこしま)な行為をしない
5. 正命(ショウミョウ)：生計を立てるための仕事で悪を犯さない
6. 正精進(ショウショウジン)：悪いことをしないように、善いことをするように努力する
7. 正念(ショウネン)：空想(妄想)しない
8. 正定(ショウジョウ)：落ち着いていること

日下部 祐基(くさかべ ゆうき)

技術士(建設部門)

日本技術士会北海道本部
倫理委員会 委員長
錦城護謄(株)北海道支店 技師長



これらを守って仕事をすれば倫理で問題を起こすことはないように思われますが、果たしてこの世で守れるでしょうか。人間とは欲と怒りそして無知で行動するものだと、仏法では貪瞋痴と言いますが、ここに問題が生じるのでしょうか。

また、「花咲か爺さん」のはなしはご存知かと思います。心の純粋なお爺さんと汚れたお爺さんが、灰をまいて花を咲かす同じ行為をして、心の純粋なお爺さんは上手に咲かせて褒められ、汚れたお爺さんは失敗して罰を受ける話です。ここで問題なのは、心が純粋かそうでないかは別として、二人とも同じ行為を行って結果が違ふということです。倫理問題も同じで、それぞれの人が同じ対応をしても結果が異なる場合があるということです。ここが、倫理には解答がないと考えるところです。

それでは、今なぜ倫理を学ぶのか。それは、倫理問題を解く方法を学習するためだと思います。解く方法には、線引き問題、相反問題、黄金律、セブン・ステップ・ガイドなどがあります。倫理問題に直面した時に、これらを知って対処するのとしらないのでは、その後の結果に差が生じると思います。

樹木希林さんの著書に「一切なりゆき」というのがあります。結果は自分で決められるものでないと、ということだと思います。仏法には、「自然法爾」というのがあります。簡単に言うと、「あるがままの自然のはたらき」という意味です。難しい倫理問題に直面した時には、学習した倫理問題の解法を参考にしながら自分なりの解答を実行し、あとはなりゆきに任せるしかないのではと思います。倫理には解答がないのですから。